感謝状

○木下和子先生（国語）
（昭和36年～61年）

退職して五ヶ月が過ぎました。25年間も勤めた三田高校をやめるとどうなるのか今年一月頃私は精神不安定でさえありました。退職しても駅をおりると自然と足が学校の方へ向いてしまうのよとおっしゃる方もあって、私もそうならないかと不安になったものです。一年余り前から足がおかしくなり階段の昇降が辛くなっていたので、人並みに一日八時間も勤務するのは無理でしたし、一家を構えていると、日中家を留守にするのも週二、三日が限度です。しかし東京女子大を卒業以来、職業を持って居なかった時期はありません。職業を通して社会と関わりを持って来たのです。専業主婦として家庭に納まっていたらノイローゼになりそうな気が致します。第一、家の仕事だって、二人暮らしですから大したすることも無いのです。住んでいる地域の人々とも、勤めをしていた関係で、殆ど交流がありません。従っておしゃべり相手も居ないのです。私は本を読むことも、テレビを見ることも、旅行して見聞を広めることも大好きです。でも今までは、自分の中に取り入れるだけではなしに、友達や、生徒の皆さんに話すことが楽しかったのです。その相手が退職すればいなくなってしまう。これはやはり学校に勤めるより仕方がないと思いました。幸いに近くの専門学校で、国語の講師の口が得られました。一般教養としての国語です。専門の科目の試験に受かるために、国語の知識がどうしても必要なので、四月から国語を授業として教えて行くか、整理が大変です。九月で前期が終わりです。後期は力点から初めて文学的なものを取り入れて行くつもりです。国語は読み書きの実用的な面と共に、文学を通しての人格形成面も重要ですから、後期を楽しみにしています。三田高に勤めていた頃にも、古典を読む会を作れたらいいのにと何時も願っていましたが、駄目でした。高看の方では、毎年、万葉、宇津保源氏枕などと重点的に取り入れ、今年は更級をやりました。一冊を全部読み上げることに意義があると思うのですが、なかなかそう会が成立しません。しかし何時か同好の士を集めて読書会をしようと思っています。その準備という訳でもありませんが、古文書が読めるように勉強を始めました。大学時代に影印本で殆ど読んできたのですが此の頃はすっかり忘れているので、書道の勉強の一助にも始めています。もっとも机の前で三十分と勉強が持たなくなってすっかり忘れ癖がついてしまいましたから、蝸牛の歩みという訳です。

七月末から八月へかけて、シルクロードの旅に出かけました。砂漠とオアシス、素晴しい景観の感激がまだ覚めません。何時か皆さんにお話したいものだと思っています。

○高尾障先生
（昭和38～48年）

十年余も母校の保健体育指導に当られました。この四月都立片倉高等学校（八王子）の教頭に栄転されました。

○萱原昌二先生
（昭和39年～41年）

母校では日本史を担当されこの四月都立篠崎高等学校の教頭に栄職されました。

◇母校職員の異動◇

○ご退任
木下和子先生（国語）

○ご転任
土方敏行先生（理科）
都立府中東高校へ

○ご着任
牛島倫子先生（国語）
都立忍岡高校から
新木要一先生（社会）
都立王子工高校（定）から
松本勝洋先生（理科）新任

会員だより

○濁川久美子
（19高野一19巨卒）

「ともかき」9号有難とうございました。

同窓会には伸々出席できませんが、遠くから母校の発展を祈っています。

今まで、都立京橋高等学校の教頭をされておりましたが、

○原田明子　20年卒

毎年出席したいと思うだけで未だ実現致しません。今村先生はお元気でございますが、先生の級でございますが、先生はお元気でしょうか、20年「海ゆかば」を歌って卒業したあの頃は懐しいと思います

○三浦カズ子（旧田中）25年卒

25年に卒業して、はや35年余になります。ご無沙汰しておりますのに「ともかき」を送付いただき有難うございます。校名も当時の第六高女から三田高校に変更され、心淋しい気がいたします。石関先生の記事を読んでやっと昔のことがなつかしくなりました機会をみて、是非一度上京いたしたく思います。現在もずうーっと保健所で働いております。日常の業務を忙殺されており、思いだけは、三田通りに行っています。ありがとうございました。

（三浦さんは富山市在住）

○平野節子　36年卒

いつも会報を送っていただきましてまことに有難とうございます。

50周年の祝賀会には友人や弟（38年卒）と参加いたしました。

60周年にはまた是非出席したいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

○草野ムツ（旧梅沢）42年卒

「ともかき」8・9号をお送り下さいまして有難うございます。11月23日がもう少し思い出していた時なので、とてもうれしかった。

8号の三先生の特集には涙してしまいました。石関先生には、特に、私達兄妹共に、英語を教わったのです。兄は墨田工業高校で、私は三田高校で、こんなことは長い間でも数少いことではないかと思います。また芦沢さん（生徒会長）の言葉に大変心達うものを感じ、これからの三田高に安心しています。23日にお会いできるのを楽しみに……

○赤羽とみ子（旧中村）47年卒

なつかしさでいっぱいですあの頃の自由で、何でも言えやれた三田の校風。友人仲間先生のお陰で、今の私が健在科目は落第点スレスレでも欲しているんだなあ、とつくづたしたく感謝しています。

（長野県長野町在住）

○有坂律子（旧福川）49年卒

「ともかき」送って下さいましてありがとうございました。一度でいいから出席してみたかったのですが、今年は都会が悪くて出かけられませんでした。次回こそは同窓生をさそって出かけたいと思って居ります。

昭和60年度『北原奨励賞』受賞者
〝今井フミ〟さん

二月八日の卒業式で菅葉会石田会長より伝達されました

『三田で発芽した私の仕事』

昭和30年卒　川上忠重

高校生活の中で

高校生活で何を得たかと問われるならば、〝たった一つだけ〟声を大にして云う事の出来るものがある。先生や友人との出合い、諸々の出来事が部では給食のことで懐かしい百留さんと栄養のことで話し合うことも数え切れぬ程であった。

〝周期性気違症〟

現在、病態栄養上の特殊な食品を製造したり、片や素材の応用開発や新製品開発に追われる毎日で、手術後の経管チューブ食等の改善に取組んでいる――と云うより、そのことで悩んでいるのである。

……

私がふと自分が周期性気違症とでも云うべき病の持主であることに気付いたのは、もう十数年前のことである。

病状が出るときは社内の雰囲気と、仕事に関係する人達との会話から自分で判断することが出来る。病状が進む自分に対し、回りはニヤニヤしているだけで、時には病状に油を注ぐ悪いやつも現われる。ある時、大手製薬会社の重役がこんな事を云ってきた。一市販のジュースはフレーバーでごまかした砂糖水だ。身体に良い訳がない。

自ら名付けた〝周期性気違症〟の種は高校時代に発芽したとしか考えられない。

そんな訳で在学中は長谷川先生、江頭先生には殊の外、面倒をかけてしまい、又生活

（次頁へ）